

千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第14週 (4/3-4/9) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		14週	13週	12週	11週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	18	17
	眼科	5	5	5	4
	インフルエンザ*	28	27	28	26
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市				千葉県	
		注意報	4/3-4/9	3/27-4/2	3/20-3/26	3/13-3/19	3/27-4/2
			14週	13週	12週	11週	13週
小児科	RSウイルス感染症		3	2	0	2	23
	咽頭結膜熱		2	0	3	1	15
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		42	35	45	42	344
	感染性胃腸炎	○	153	126	101	116	847
	水痘		4	6	6	4	64
	手足口病		0	0	1	0	4
	伝染性紅斑		0	1	1	0	8
	突発性発しん		6	8	14	10	51
	百日咳		0	0	0	1	1
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	5
	流行性耳下腺炎		1	1	1	6	27
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		130	172	150	231	1,443
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	○	3	1	0	0	37
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	3
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	7
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	1	0	8

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(2件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
レジオネラ症	女性	50歳代	病原体抗原の検出	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状

・第14週は、レジオネラ症1件(2)、急性脳炎1件(5)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第14週のコメント

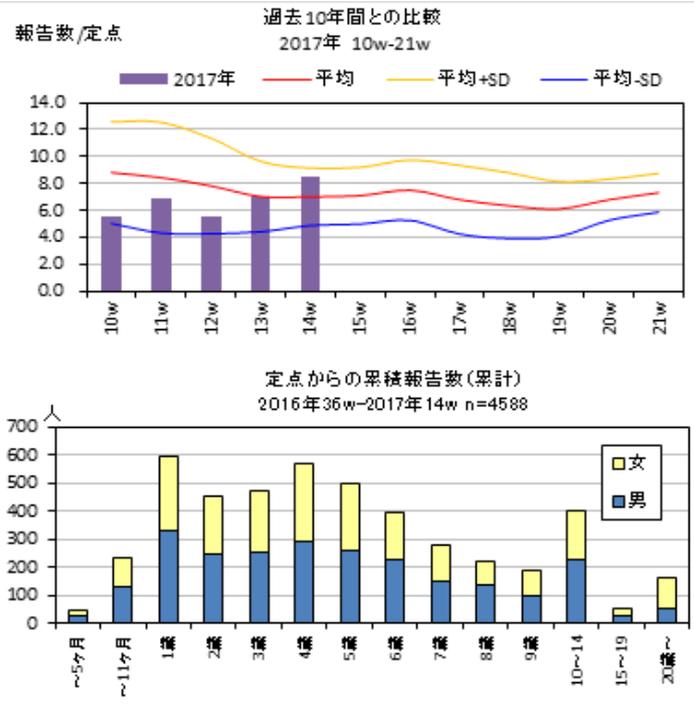
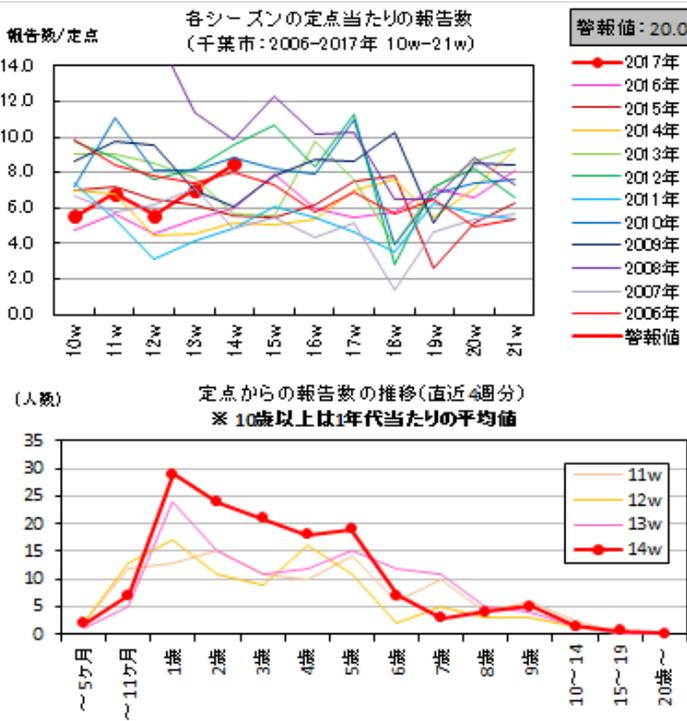
<感染性胃腸炎>前週より増加し8.50となった。過去10年の同時期と比べると多め。

<流行性角結膜炎>前週より増加し0.60となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

＜感染性胃腸炎＞

全国レベルの2017年第13週は過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、香川県、福岡県、宮崎県で多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。
 千葉市の2017年第14週は前週より増加し8.50となり過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(15.5/定点)で最も多く、同区の2歳及び5歳で最も多く発生報告がありました。
 今シーズンである2016年第36週から2017年第14週までの累積報告数(n=4588)によると、性別では男性が53.7%(2465名)、女性が46.3%(2123名)で、年齢階級別では1歳(13.0%:597名)、4歳(12.5%:574名)、5歳(10.9%:499名)の順に多くなっています。



＜流行性角結膜炎＞

全国レベルの2017年第13週は過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、富山県、神奈川県、宮崎県で多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。
 千葉市の2017年第14週は前週より更に増加し0.60となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、美浜区(3.0/定点)で発生報告があり、同区の4歳、20歳代及び30歳代で発生報告がありました。
 2017年第1週から第14週までの累積報告数(n=31)によると、性別では男性が54.8%(17名)、女性が45.2%(14名)で、年齢階級別では30歳代(35.5%:11名)、50歳代(12.9%:4名)の順に多くなっています。

